

防コミの歩き方



地域で取り組む防災活動と絆

日ごろから防災意識を高めて 若松地区防災福祉コミュニティ

●地域の安全に向けて

若松地区防災福祉コミュニティは、JR 新長田駅南側、日吉町全域と若松町、大橋町の約半分、野田町一部を含めた、須磨区に接する約 2200 世帯が生活する地域にあります。平成 10 年度に発足し、以来地域の皆さんとともに日ごろから防災意識を高め、火災には特に注意しています。

今回は、私たちの活動をいくつかご紹介します。

●歳月に耐えた消火訓練

阪神・淡路大震災以後、市内の多くの公園で小型消防ポンプ、資機材一式を備えた防火設備が整備されました。私たちのところでは、特に若松鷹取公園、ひだまり公園で市民消火隊による定期的な放水訓練が実施されます。

今ではしっかりと小型消防ポンプの点検から、準備体操、整列、訓示そしてホースの基本の投げから放水訓練開始です。ホース接続も気が抜けません。

●要援護者の避難訓練

避難する本人も大変ですが、安全管理する人も含め手助けする人の大変さが訓練ごとに実感されます。防コミ発足以前から 1 台避難用リヤカーを保有していましたが、昨年度は資機材助成を利用して、軽量で折り畳みができるリヤカーを新規購入しました。リヤカー、車いす、担架、人力と手段は様々ですが、体力だけではなく、人の心、思いやり、人として五感以上のものを働かせる必要があると思います。

●市民救命士講習会

防コミ発足 4 年目から、長田消防団第 7 分団の方々に講師に招き、年明けの時期に実施しています。コロナによる中断を経て、今年 2 月に再開しました。参加者は年配者、女性を中心に、忘れていた安全確認、声かけから AED 装着まで、真剣に取り組みました。

●これからも

一部のみの紹介ですが、今後もこうした日ごろからの活動を機会に、地域の皆さまと防災意識を高め、持続していきたいと思います。

(若松地区防災福祉コミュニティ 本部長 城本直良)



見学に来られた JICA の方と一緒に放水を実施しています。



避難を手助けする側、手助けされる側両方を経験しています。



消防団員の指導により、心肺蘇生法と AED の使用方法を確認しています。